

平成 28 年度学校評価報告書（実施結果）

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>教育課程 学習指導</p> <p>① 授業の質と量の確保をめざし、思考する場面、発表する場面を重視した授業づくり、優れた授業実践の共有化を進める。</p> <p>② 各行事の目標を明確化し共通理解をもたせ、生徒会・委員会活動への主体的行動を引き出す取組みを進める。</p>	<p>① 共通テーマに基づく授業研究、教材や指導法の共有、共通テスト実施等、教科による取組みの前進を図る。</p> <p>② 教育課程の改善や行事及び諸日程の精査により授業時間数確保の取組みを進める。</p> <p>③ 従来の取組みの充実とともに、文化祭発表や取組強化月間の設定などを通じて新たな取組みへの挑戦を支援する。</p>	<p>① 共通テスト実施率が向上したか。</p> <p>② 授業時間数が増加したか。</p> <p>③ 新たな取組みが増加したか。</p>	<p>① 2回校内授業研修を実施し、向上した。</p> <p>② 増加した。</p> <p>③ 変わらなかった。</p>	<p>① 更に進めて完全共通問題とする。</p> <p>② 平成 29 年度は授業時間の 35 週を確保し、学力向上に向け、授業内容を充実させるためのさらなる授業改善を進める。</p> <p>③ 学校行事の目標を再度確認し、生徒の主体的な行動を促進させる取組みを進める。</p>	<p>(中学係者校関)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校でも、1 単位の科目があり、行事等で実施できなくなり、苦勞するなかでよく授業時間の確保に努めたと思う。 ・ 中学校でも行事の精選を進めている。その際の基準を考えることが大切である。 <p>(PTA 関係者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事が減ったことで生徒が残念がっている。復活することはできないだろうか。 	<p>(学校評価)</p> <p>① 共通テスト実施率は着実に向上した。</p> <p>② 授業時間数の増加については、前倒しして平成 29 年度に 35 週の確保を達成した。</p> <p>③ 学校行事の精選及び適切な配置を実施した。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	学校評価
	具体的な 手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
生徒指導・支援 ①既存部活動の見える化を進め、それぞれの活動の魅力をアピールする。 ②交通安全指導及び制服・遅刻指導に取り組む。 ③学年や教育相談会議を核に生徒の課題への早い段階での対応を進める。	① 生徒会報や百合高新聞で各部活動についての校内向け広報を充実させる。 ② グループ及び学年が連携して、生徒自身の行動変容につながるような交通安全教育や制服・遅刻指導を進める。 ③ ケース会議や教育相談会議は、定期開催に加え時機に応じて開催する。	① 校内広報の発行回数が増えたか。 ② 交通事故件数や遅刻回数が減少したか。 ③ ケース会議や教育相談会議は、昨年以上の回数を開催したか。	① 変わらなかった。 ② 件数の減少にはつながらなかった。 ③ ケース会議の開催回数は減少した。	① 部活動の生徒を主体的に活用した広報活動を幅広く進める。 ② 人権意識の未熟さや社会性の未発達の原因と考えられるものがあるので、日常的に人権感覚や社会性を育てる指導を行う必要がある。 ③ 外部機関との連携を強化し、ケース会議の定期開催を継続し、課題のある生徒への組織的な支援を一層充実させる。	(地域関係者) ・交通事故を起こす生徒は再発するのか、注意深く分析し指導してほしい。 ・交通安全教室では、スクエアドストレート方式は効果があると聞いている。予算面もあると思うが、検討してほしいか。 ・自転車通学については、「免許制」を検討してもよいのではないかと。 (小学校関係者) ・小学校でも交通安全指導はしているが、なかなか道路の飛び出し等はなかなかなくなる。児童が、高校生の自転車で怖い思いをしたという報告を受けているので、今後も指導を継続してもらいたい。	① 生徒会報や百合高新聞の内容の充実に努めるとともに、横断幕を設置した。 ② 自転車通学者全員を招集して、自転車通学安全教室を開催するとともに、下校時の校門指導を行った。 ③ 課題を有する生徒に対する支援については、スクールカウンセラーやケース会議、スクールソーシャルワーカーの活用により、解決に向けた取組みができた。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価	学校評価
	具体的な 手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
進路指導・支援 ①生徒自身による課題把握や学習意欲の向上につながる進路指導を進める。 ②生徒が身近に世界を捉えることができる国際教育を推進する。	①学年及び教科において、実力テストの分析結果の共有・活用を進めるとともに、科目選択への丁寧なガイダンスを行う。 ②国際教育の推進について専修大留学学生との交流形態を見直し、より身近に考えることのできる形態を模索する。	①科目選択に関する生徒の理解は深まったか。 ②生徒にとって、国際教育が身近にとらえられたか。	①深まった。 ②国際教育講演会を開催し、難民問題を深く考えるよいきっかけとなった。	①実力テストの結果を活用し、学習意欲と進路選択意識の向上に結びつける必要がある。 ②「国際教育」を意図した行事や総合的な学習の時間等での取組みは定着・充実した。	(PTA関係者) ・百合高塾をもっと活性化させてほしい。	①総合的学習での課題解決学習や各種行事等でのキャリア教育に係る取組みは定着した。 ②国際教育講演会は、適切な時期に実施するよう検討する。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>地域との協働</p> <p>①地域との協働事業や生徒の貢献活動を充実させる。</p> <p>②保護者との連携を緊密にし、教育活動への理解・協力を深める。</p>	<p>①地域との協働事業への生徒参加の拡大を進めるとともに、生徒活動を積極的に発信する。</p> <p>②保護者の来校機会の拡大を図る。</p>	<p>①地域との協働事業への生徒の参加が増加したか。</p> <p>②保護者の来校は増えたか。</p>	<p>①増加した。</p> <p>②変わらなかった。</p>	<p>①H Pの改善を図ってアクセスの一層の増加を図る。また、地域清掃や挨拶の励行など今後も継続する。</p> <p>②「やまゆり観賞会」や「ながさわにこここハーモニー」、部活動の地域での活動など地域との交流事業は、今後も継続するとともに、生徒の参加をもっと増やしていく。</p>	<p>(P T A関係者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携で生徒がどのような教育的な効果が生まれるのか、学校はもっと示すべきではないか。(小学校関係者) ・今後は、地域防災など、小・中・高・大が一緒に参加できる地域連携があるとよいと思う。(大学関係者) ・高校から部活動の指導者の要請があれば、協力できる用意がある。(地域関係者) ・「ながさわにこここハーモニー」運営にあたり、学校関係者の皆さんにご協力をいただいた。 	<p>①地域との協働事業への生徒の参加が行われ、地域からも高い評価を得た。</p> <p>②保護者の来校機会は必ずしも増えなかったが、十分な情報提供を行うことができた。</p>
学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等			
<p>学校管理 学校運営</p> <p>①グループ・学年の業務を組織的、継続的に進める。</p> <p>②成績関係資料・調査書作成、各会計事務処理を適正に行う。</p>	<p>①各グループ・学年による文書管理を徹底し、確実な業務引継ぎを行う。</p> <p>②成績関係資料や調査書の点検システムを充実させるとともに、全職員が私費会計基準に習熟し、業務にあたる。</p>	<p>①文書管理や業務の引継ぎは徹底できたか。</p> <p>②成績関係資料・調査書作成、各会計事務において、ミスを防ぐことができたか。</p>	<p>①徹底できた。</p> <p>②ミスを防ぐことができた。</p>	<p>①成績処理シートの改良を実施した。また、職員相互で声を掛け合って事故・不祥事を未然に防ぐ。</p> <p>②迅速かつ適切に対応するために、職員間での情報共有など一層徹底していく必要がある。</p>	<p>(小学校関係者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校目標を、数量的に評価しようとしている取組みは素晴らしい。(中学校関係者) ・中学校でも、時間がない、予算がないという苦労がある。そうしたときに、生徒に相談すると新鮮な意見を出してくるということがある。高校でも、HRなどを活用して生徒の意見を採り上げる工夫をするとういのではないか。 	<p>①成績処理シートの改良やマニュアルの見直しなど実施した。</p> <p>②企画会議を中心に学校経営上の課題等について、情報や状況を把握し、課題解決に向けた取組みが図られた。</p>